

# 授業改善のイメージ(国語科)

本年度の研究テーマ(2年次)

自身の学びを俯瞰し自己調整する自律した学習者の育成  
 ~「思考力・判断力・表現力等」の育成と評価方法の充実~

## 授業改善を行う単元とその評価規準(思考力・判断力・表現力等)

1年「根拠を明確にして書こう」	2年「適切な根拠を選んで書こう」	3年「考えを効果的に伝えよう」
<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B書くこと(1)ア)</li> <li>・根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B書く(1)ウ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B書く(1)ア)</li> <li>・根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B書く(1)ウ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にしている。(B書く(1)ア)</li> <li>・表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫している。(B書く(1)ウ)</li> </ul>

## 「思考力・判断力・表現力等」の育成の方針

### (1)大切にしたい見方・考え方の明確化

- ・国語科における「見方・考え方」とは、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着眼して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めることである。
- ・国語科は、様々な事物、経験、思い、考え等をどのように言葉で理解し、どのように言葉で表現するかという、言葉を通じた理解や表現及びそこで用いられる言葉そのものを学習対象としている。
- ・書くことにおいては、引用のしかた、根拠の明確さ、集めた材料を、意見や根拠などの関係を見いだして整えることに注目させたい。

### (2)「見方・考え方」を働かせるための「見通し」と「振り返り」の場面の設定

#### ①「見通し」をもたせる場面

- ・見方・考え方を働かせる発問の工夫  
導入(第一次)で単元の流れを提示し、単元のゴールとそれに向け付ける力を認識させる。
- ・見通しを共有する場面の設定

毎時間(もしくは小単元)ごとに振り返りの時間を取り、学習の進捗状況や、疑問点などを明確化にし、学習の調整につなげる。

#### ②「振り返り」の場面

毎時間(もしくは小単元)ごと、単元の最後に振り返りの時間を取り、学習の進捗状況や、つけた力をメタ認知させたり、疑問点などを明確化させたりし、学習の調整につなげる。

## 評価方法の充実の方針

### ①形成的評価

- ・行動観察、ワークシートを用い考えを視覚化したり、グループワークでの発言を机間巡視し、様子を把握する。
- ・単元の途中で(ワークシート、小テスト、form 入力など)からBに達していない生徒を把握する。
- ・努力を要する状況の生徒への手立て
  - ⑦レディネスを整える→ その単元で使う漢字や語句の意味などを、小テストなどを活用し、習得させる。
  - ⑧学習形態の工夫→グループ活動(能力などを考慮したグループ)の中で教え合い、共有を図り、学習の見通しが持てるように工夫する。
  - ⑨振り返りのフィードバック→授業の終わりに振り返りをさせ、Bに達していない学習者には個別でフィードバックを行う。

### ②総括的評価

- ・定期考査や小テスト、振り返りシートにて、領域に関わる知識や理解、思考力・判断力・表現力を問う問題により評価する(知)(思判表)
- ・単元末の振り返りをワークシートで行う。成果物や定期考査でも評価を行う。
- ・ワークシートおよびレポート、成果物、パフォーマンステストによって、その取組状況を評価する(思判表)(主体)